TOEIC® Program の大学・高校における活用について
–語彙の洗練性指標および複雑性指標に基づく分析と学習指導要領との関連性から–

日本国際学園大学　卯城　祐司
東北大学・日本学術振興会特別研究員 PD 小室　竜也

目次

1. TOEIC® S&W および TOEIC Bridge® S&W とパフォーマンステスト 5

2. S&W および Bridge S&W の全体的傾向：発表語彙の観点から 6

3. スピーキングタスクの分析 11

3.1 S&W および Bridge S&W スピーキング 11

3.1.1 音読問題 12

3.1.2 写真描写問題 13

3.1.3 応答問題 14

3.1.4 提示情報への応答 15

3.1.5 意見を述べる問題 16

3.1.6 S&W および Bridge S&W の問題形式 16

3.2 複雑性指標に基づく分析 17

4. ライティングタスクの分析 19

4.1 S&W および Bridge S&W ライティング 19

4.2 複雑性指標に基づく分析 22

5. まとめ 25

表 1 S&W と Bridge S&W の問題数、所要時間、スコア 5
表 2 S&W および Bridge S&W で用いられているスピーキングタスク 11
表 3 S&W におけるスピーキングタスクの問題形式 12
表 4 CEFR-J における「話すこと (やりとり)」の Can-Do リストの一例 15
表 5 Bridge S&W におけるスピーキングタスクの問題形式 16
表 6 S&W および Bridge S&W におけるスピーキングタスクの語彙多様性指標 17
表 7 S&W および Bridge S&W におけるスピーキングタスクの 1 文あたりの動詞の要素数 18
表 8 S&W および Bridge S&W におけるスピーキングタスクの 1 文あたりの名詞の要素数 18
表 9 S&W および Bridge S&W で用いられているライティングタスク 19
表 10 S&W におけるライティングタスクの問題形式 19
表 11 Bridge S&W におけるライティングタスクの問題形式 20
表 12 S&W および Bridge S&W におけるライティングタスクの語彙多様性指標 22
表 13 S&W および Bridge S&W におけるライティングタスクの動詞の要素数 22
表 14 S&W および Bridge S&W におけるライティングタスクの名詞の要素数 22

図 1 中学校・高校でのパフォーマンステスト実施状況 6
図 2 分析対象の教材 7
図 3 New JACET 8,000 Basic Word List に基づく
S&W および Bridge S&W の語彙カバー率：スピーキングタスク 8
図 4 New JACET 8,000 Basic Word List に基づく
S&W および Bridge S&W の語彙カバー率：ライティングタスク 8
図 5 教科書コーパスに基づく S&W および Bridge S&W の語彙カバー率：スピーキングタスク 9
図 6 教科書コーパスに基づく S&W および Bridge S&W の語彙カバー率：ライティングタスク 9
図 7 S&W における写真描写問題の具体例 (スピーキング) 13
図 8 S&W における写真描写問題の具体例 (ライティング) 20
図 9 E メール作成問題の具体例 21
図 10 Bridge S&W における語彙プロフィール 23
図 11 S&W における語彙プロフィール 24

1. TOEIC® S&W および TOEIC Bridge® S&W とパフォーマンステスト

小中連携や高等学校と大学の接続などの議論の中で、英語のライティングおよびスピーキング能力の測定には大きく注目が集まっています。これらの産出技能を測定するパフォーマンステストの 1 つである TOEIC® Speaking & Writing Tests (以後、S&W) および TOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests (以後、Bridge S&W) は表 1 の問題形式で構成されています。

表 1

S&W と Bridge S&W の問題数、所要時間、スコア

	S&W		Bridge S&W	
技能	スピーキング	ライティング	スピーキング	ライティング
全体の問題数	11 問	8 問	8 問	9 問
全体の所要時間	約 20 分	約 60 分	約 15 分	約 37 分
全体のスコア	0〜200 点 (10 点刻み)	0〜200 点 (10 点刻み)	15〜50 点 (1 点刻み)	15〜50 点 (1 点刻み)

S&W と Bridge S&W には以下のような特徴が見られます。

- ライティングとスピーキングの技能ごとにスコアが算出される
- リーディング・リスニングに比べると問題数が少ない
- パソコンを用いて受験する
- S&W と Bridge S&W は配点と所要時間が異なる

それぞれのテストでは異なるタスク形式が採用されており、産出技能を多面的に測定しています。

スピーキングおよびライティング能力を測定する際には、実際に話しているパフォーマンスを測定することが重要です。例えば、昔よく用いられた発音・イントネーションのマークシート選択問題は、実際に発音できるのかを適切に評価していないため、パフォーマンス評価を行わないと本当にスピーキングやライティングの技能を測定しているのかがはっきりとせず、テストとしての妥当性に問題があります。このようなパフォーマンステストについて、教育現場での状況についてまず確認しておきましょう。

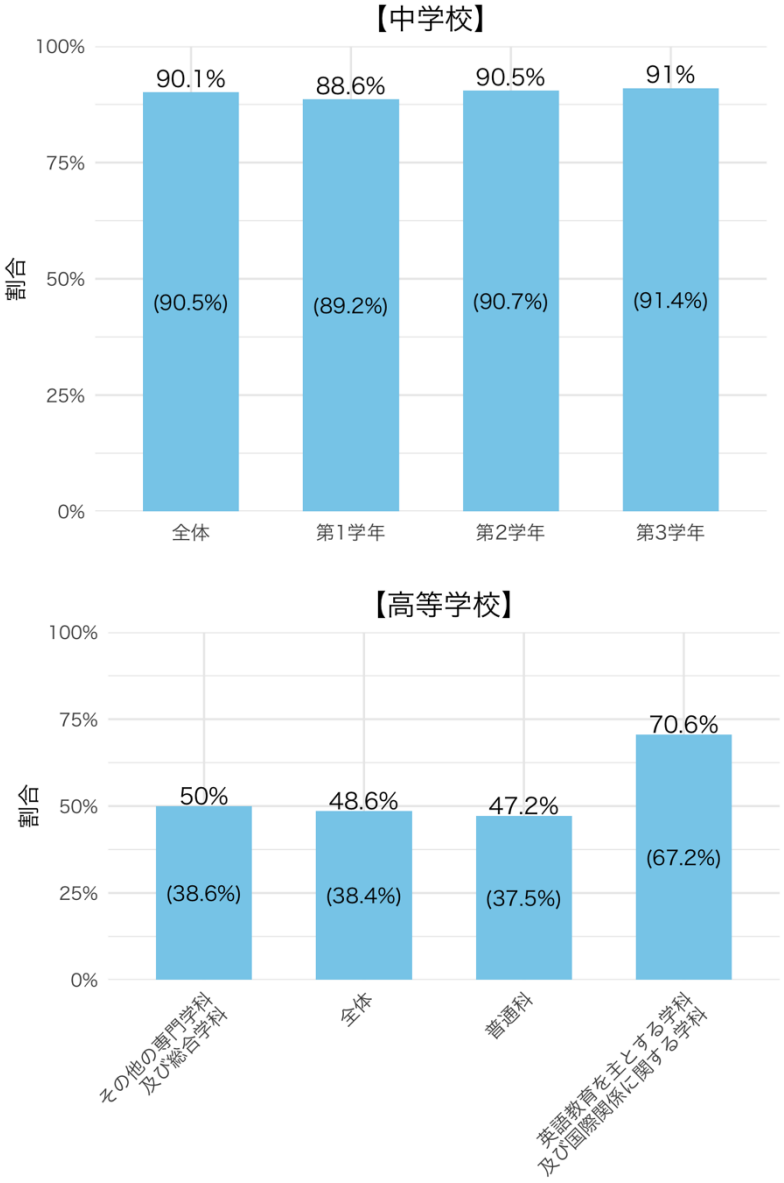
図 1 は令和 4 年度の文部科学省「英語教育実施状況調査」に基づく、中学校・高校でのスピーキングおよびライティングのパフォーマンステストの実施状況に関する調査結果です[1]。中学校では、約 9 割の学校がパフォーマンステストを校内で実施している一方、高校の約 5 割では校内でスピーキングテストが実施されていません。実に残念な結果ですが、これはスピーキングテストの難しさと関係しているとも考えられます。具体的には、クラスサイズや機材の関係で実施や採点が難しいという状況があります。スピーキングテストの実施には、校内に録音をする機材が必要です。現在は中高の教育現場でも生徒 1 人につき 1 台の端末があるため、スピーキングテストを実施するコストはかなり下がりました。大学生はスマホやパソコンを所持しており、大学では音読の課題が出題されることもあります。

[1] 令和 5 年度の「英語教育実施状況調査」の結果はこちら
(https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043_00005.htm)

しかし、クラスサイズが大きい場合、生徒が提出した音声ファイルを先生が1人で聞いて採点する必要があります。さらに、1回聞いただけで評価するわけではなく、例えば、発音はどうか、内容はどうかなどの観点で複数回聞くこととなります。すると、普段の業務が忙しく、なかなか採点まで手が回らないことも考えられます。そして、せっかく採点した結果も、別の先生が採点したら、全く異なる採点結果が得られる可能性もあります。つまり、評価者間信頼性が低くなってしまう可能性があります。評価の信頼性を高めるには評価者トレーニングが必要ですが、例えば、中高ではALTが学校に常駐していない場合、トレーニングの時間を確保することも難しくなってしまうと考えられます。他にも採点者間の厳しさや、前半の採点から後半の採点にかけての変化など、多様な原因で採点が一貫しない可能性もあります。これらの理由でパフォーマンステストの実施率が十分に高かったわけではないと想定されます。

図 1

中学校・高校でのパフォーマンステスト実施状況



校内で行うパフォーマンステストは、テストに向けて英語で書いたり話したりする練習が促進されるという波及効果を持っており、とても有意義なものです。しかし、このパフォーマンステストの内容は学期中に学習した内容などが中心になってしまう可能性があります。さらに、ハロー効果やゴレム効果など、評価者の主観が入り混じった評価となってしまい、生徒のスピーキング・ライティング能力を客観的に測定できているわけではないかもしれません。このような実情を踏まえると、S&WおよびBridge S&Wは教育現場に対して、スピーキング・ライティング能力を客観的に測定する機会を提供していると言えます。

2. S&WおよびBridge S&Wの全体的傾向：発表語彙の観点から

本節ではS&WおよびBridge S&Wのモデル回答で用いられている語彙の全体的傾向を紹介します。

第二言語学習者の語彙知識は、リスニングやリーディングで用いられる受容語彙と、スピーキングやライティングで用いられる発表語彙の2種類に大別できます。またライティングで「使える語彙知識」はスペルや発音を知っていること (語形の知識) に加えて、コロケーションを知っていること (文法的なつながりの知識) や、フォーマルな語彙であるか判断できること (語用論的な知識) など、多面的であると言えます。さらにスピーキングでは発音や即興性、ライティングでは正確なスペルや文法性など、求められる語彙知識が技能によって異なります。このように語彙知識は多面的であり、リスニングやリーディングで用いられる受容的な知識から連続的な階層をなしています。

発表語彙知識は語彙知識の階層の中で高く位置づけられているような印象を受けますが、実は語彙を「使う」

という点でハードルはそこまで高くありません。例えば、写真を描写するパフォーマンステストにおいて、日本語では知っているけれども英語で表現できないものは、自分が使える高頻度な簡単な語彙でパラフレーズできます。以下では、S&W および Bridge S&W のモデルで用いられている発表語彙の特徴について、具体的なデータを用いながら、ハードルは実は高くないという証拠を示していきます。

図 2

分析対象の教材

今回の語彙レベルの調査は、図 2 に示される 3 つの教材におけるモデル回答を対象としました[2]。あくまで今回使用した教材のデータに限定し、最も高い採点スケールに入る回答例で使用される語彙レベルに限定した内容です。つまり、事例的研究であることから、一般化は難しいかもしれません。そのため、今回得られた結果が、S&W、Bridge S&W を受験する上で求められる「最低限のレベル」というわけではないことにはご注意ください。

分析には New Word Level Checker による 2 種類の語彙リスト (New JACET 8,000 Basic Word List / 新学習指導要領に基づく小学校および中学校の教科書コーパス) を用いて、語彙のカバー率を S&W および Bridge S&W ごとに計算しました。繰り返しになりますが、あくまで今回使用した教材のデータについて、最も高い採点スケールに入る回答例で使用される語彙レベルに限定されています。

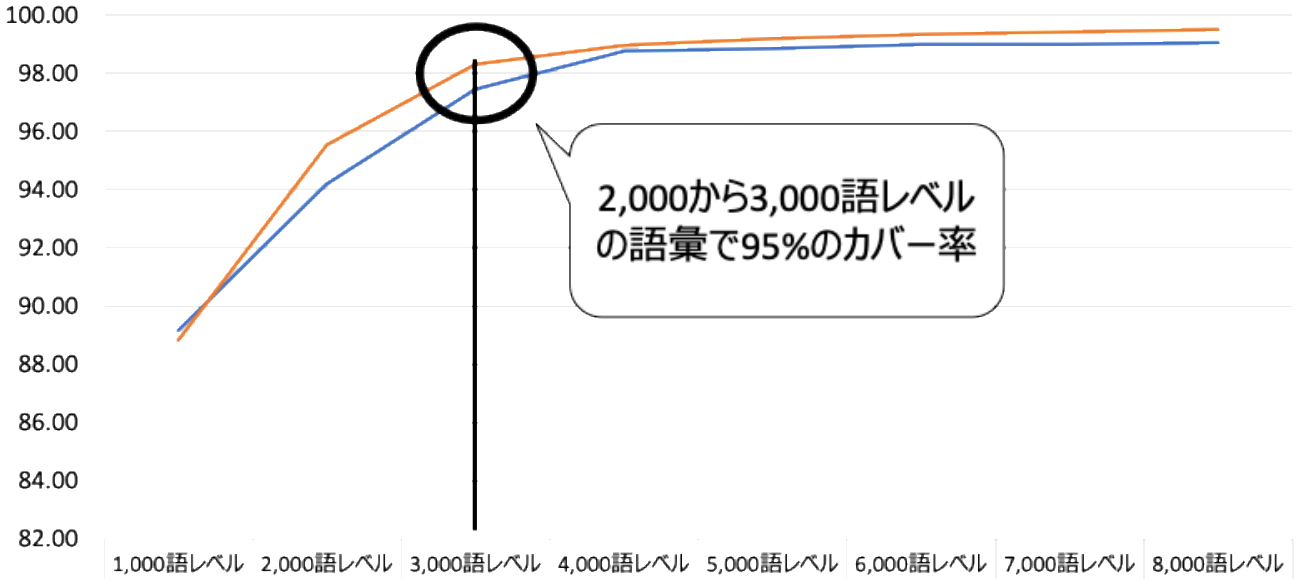
スピーキングタスクで使用される語彙の分析結果は図 3 の通りです。スピーキングタスクの場合、3,000 語レベルで 95%の語彙をカバーする結果が得られました。つまり、最も高い採点スケールを得た回答でも、高頻度 3,000 語で構成されているということとなります。このことから、高頻度基本語を活用することの重要性が示されました。

---

[2] 『TOEIC Bridge 公式ガイドブック』(2019)
『公式 TOEIC ® Speaking & Writing ワークブック』(2021)
『公式 TOEIC® Speaking & Writing ガイドブック』(2022)

図 3

New JACET 8,000 Basic Word List に基づく S&W および Bridge S&W の語彙カバー率：スピーキングタスク

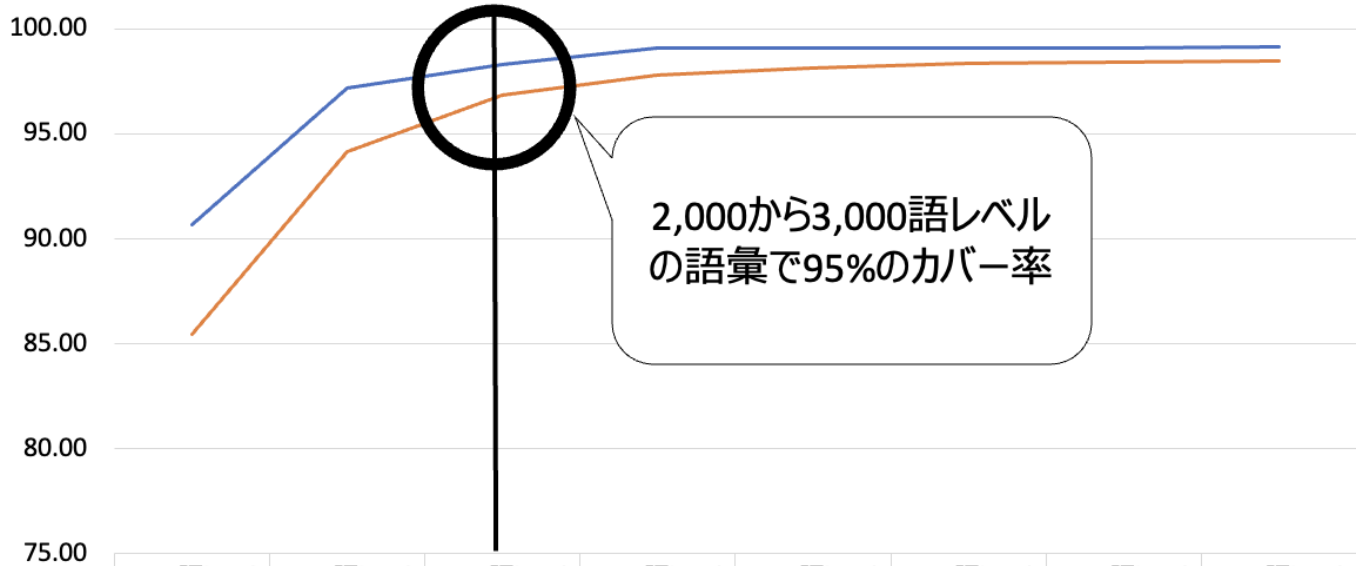


	1,000語レベル	2,000語レベル	3,000語レベル	4,000語レベル	5,000語レベル	6,000語レベル	7,000語レベル	8,000語レベル
Bridge S&W	89.16	94.21	97.45	98.77	98.86	98.99	98.99	99.05
S&W	88.82	95.55	98.32	98.95	99.20	99.33	99.42	99.51

ライティングタスクで使用される語彙の分析結果は図 4 の通りです。スピーキングタスクと同様に、2,000 から 3,000 語で 95%をカバーすることができました。

図 4

New JACET 8,000 Basic Word List に基づく S&W および Bridge S&W の語彙カバー率：ライティングタスク



	1,000語レベル	2,000語レベル	3,000語レベル	4,000語レベル	5,000語レベル	6,000語レベル	7,000語レベル	8,000語レベル
Bridge S&W	90.66	97.18	98.32	99.07	99.09	99.09	99.09	99.16
S&W	85.44	94.15	96.86	97.79	98.14	98.36	98.42	98.48

New Word Level Checker における教科書コーパスの語彙リストを用いた語彙カバー率の結果は、スピーキングタスクは図 5、ライティングタスクは図 6 の通りとなりました。

図 5

教科書コーパスに基づく S&W および Bridge S&W の語彙カバー率：スピーキングタスク

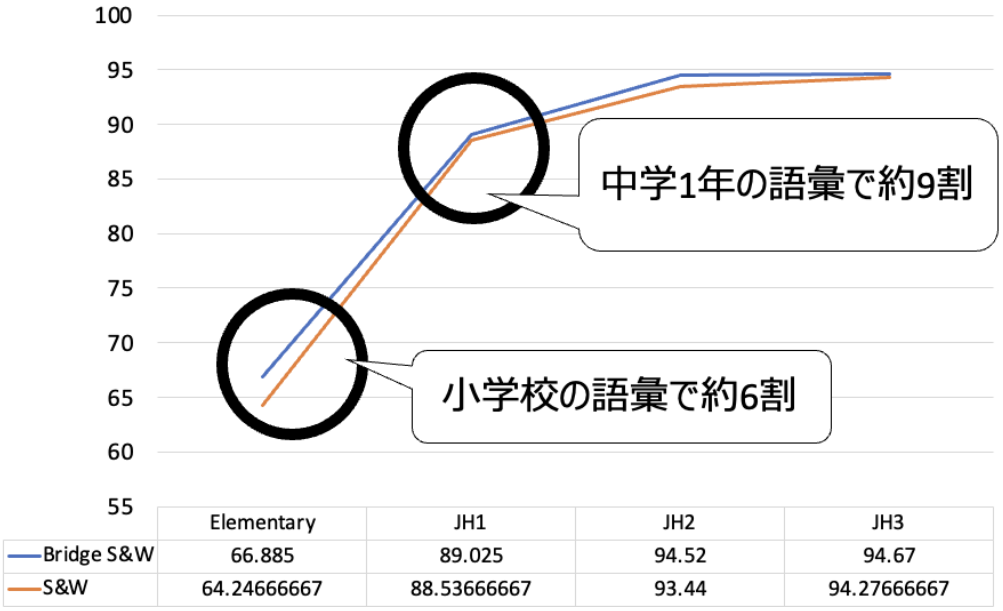
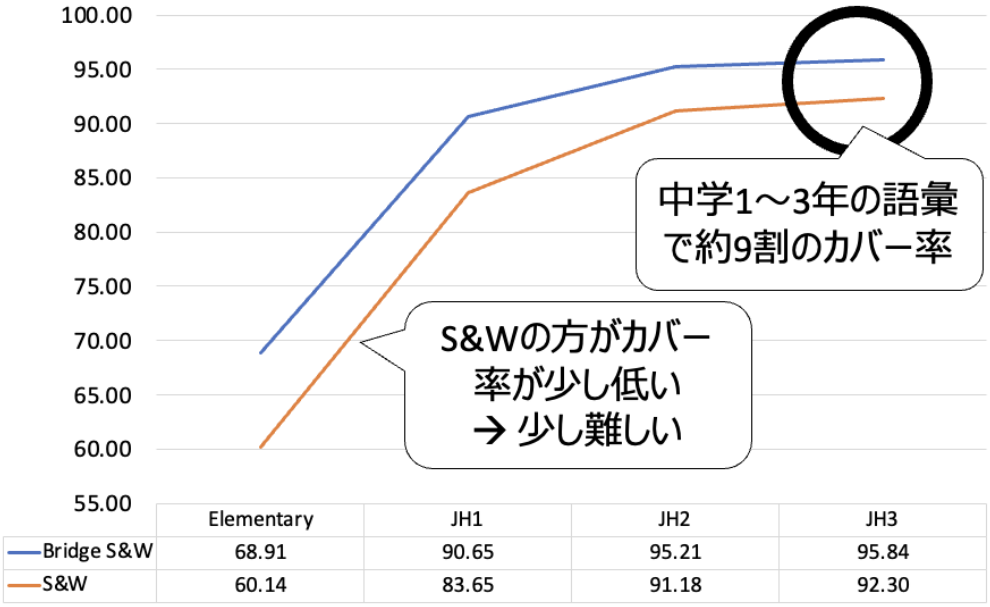


図 5 から、スピーキングタスクの語彙について、小学校の教科書で扱われる語彙で約 6 割、中学校 1 年生から 3 年生で 84～94%のカバー率が得られました。この結果から、S&W であっても、スピーキングタスクの語彙は中学生までに習った基本語で対応可能であり、高い評価を得ることができます。

一方、ライティングタスクの結果は図 6 のようになります。小学校の語彙で 57～69%、中 1～3 で 80～92%のカバー率となりました。Bridge S&W と S&W の間では 4～5%の差が見られ、ライティングの場合は、S&W の方が語彙の観点では難しいことが示されました。しかし、中学校で習った語彙で約 9 割のカバー率が得られていることから、やはり高頻度語彙の重要性が示されています。

図 6

教科書コーパスに基づく S&W および Bridge S&W の語彙カバー率：ライティングタスク



カバー率に関する調査結果をまとめます。S&W で高い評価を受けるための単語レベルは 2,000〜3,000 語でした。一方、学習指導要領では高校卒業までに指導する語彙を 5,000 語と示しています。つまり、最も高い採点スケールのモデル回答では中高で学習した語彙で十分に対応することができます。具体的には、3,000 語レベルを超える難しい語を使う必要はなく、高頻度語彙を使いこなすことが重要であることが示されました。ただし高頻度であっても、句動詞には自動詞と他動詞の両方があり文法的に複雑であったり (例. get down：伏せる、〜を書き留める、落ち込む)、高頻度語ほど多義性が高かったり (例. read a book, book a hotel)、同音異義語 (例. meat – meet, air – heir) が多かったりします。そのため、高頻度語彙には特有の困難がある点には注意が必要です。

教科書コーパスを用いた分析の結果、中学校 1 年生の段階で学ぶ語彙で約 8 割のカバー率が得られました。これらの結果は、高頻度で用いられている基本語を「発表語彙」として定着させることが 4 技能 5 領域のコミュニケーションに役立つと言えます。例えば、比較的難しい extinguish を使わずとも、put out を使うことで自分の言いたいことを表現できます。

得られた結果の解釈について、繰り返しになりますが、注意点があります。今回の調査対象となったデータは最も高い採点スケールで使われている語彙です。そのため、中高で学習するような 2,000 から 3,000 語の語彙を、発表語彙知識として自由に使いこなすことができれば、最も高い評価を得ることができると解釈できます。ただし、句動詞や多義性、発音など、他の評価観点 (例：内容の妥当性や一貫性) がどのように影響しているかは未検討である点に注意が必要です。語彙の観点だけで見ると、中高生からでも十分に挑戦できるテストであり、特に、Bridge S&W は挑戦しやすいと言えます。大学生は経験やレベルに応じて Bridge S&W、S&W それぞれ効果的に発信力の測定に活用できるでしょう。中高でも扱われる高頻度な基本語彙を発表語彙として活用できることで、S&W で高い評価を得ることも十分に可能と言えます。

3. スピーキングタスクの分析

それでは、続いてはタスクごとに用いられている構文の複雑性を学習指導要領や検定教科書の観点から検討した結果をお伝えいたします。まずはスピーキングタスクに焦点を当てていきます。

S&W および Bridge S&W では表 2 に示されるように、音読や写真描写、応答、解決策や意見を述べること、ストーリーの作成やアドバイスなど、複数種類のスピーキングタスクが採用されています。この複数タスクが採用されている理由は、測定する能力であるスピーキング能力の構成概念が多面的であるためです。

表 2

S&W および Bridge S&W で用いられているスピーキングタスク

S&W (全 11 問)		Bridge S&W (全 8 問)	
Q. 1–2	音読	Q. 1–2	音読
Q. 3–4	写真描写	Q. 3–4	写真描写
Q. 5–7	応答	Q. 5	聞いたことを伝える
Q. 8–10	提示された情報に基づく応答	Q. 6	短い応答
Q. 11	意見を述べる	Q. 7	ストーリー作成
		Q. 8	アドバイス

スピーキング能力の構成概念には、例えば、りんごを英語で言うときに正しく apple と言えるかどうかという制限的なレベルから、apple を使って適切なコロケーションである red や green を使えるか、皮がついて丸い形をしていれば可算名詞として使い、ジャムになっていたり、すりおろしたりして元の形がなくなってしまったら不可算名詞として使えるかなどの、自由産出のレベルまでが存在します。さらに、スピーキングは一人でスピーチをするような発表と、誰かとディスカッションをするようなやり取りの観点、自分でアイディアを生成して、英語でどのように表現するか、考えをまとめる能力も必要です。このようにパフォーマンス能力は様々な側面を持っています。S&W および Bridge S&W で用いられているタスクは、スピーキング能力の構成概念を段階的に測定しています。

なお、2016 年よりスピーキングのみ測定する TOEIC Speaking Test が開始されています。スピーキング技能に限定していることから、校内でのスピーキングテストの実施に不安がある先生は活用することも考えられます。また、校内でスピーキングテストを実施している学校もありますが、この校内でのテストは「現状の力を精密に測ること」と「評価を通して生徒の学びを促進すること」の両方を目的としています。一方、S&W や Bridge S&W は「現状の力を精密に測ること」が主目的となっています。こちらは学校によっても異なりますが、例えばいわゆる進学校において、海外の大学へ留学を目指す学生や教員採用試験の二次面接の受験を予定している学生や、夏休みの短期海外研修プログラムに参加する際など、スピーキング能力に特化して客観的に測定したい場合にお勧めできるのではないでしょうか。また、その結果が英語学習の動機づけを高めることができるかもしれません。

3.1 S&W および Bridge S&W スピーキング

表 3 は S&W のスピーキング問題に焦点を当て、その問題形式をまとめたものです。S&W のスピーキング問題は 5 つのタスクがあり、全 11 問で構成されます。所要時間は約 20 分です。各問題に対して準備時間が設けられ、回答時間に制限があります。表 3 の右側には評価基準とそのスケールを示しています。評価基準には様々な要因が含まれています。難しい語彙や構文を使ったからと言って、高い得点が得られるというわけではなく、一貫性や内容の妥当性なども評価されていることに注意が必要です。

表 3

S&W におけるスピーキングタスクの問題形式

内容	準備時間	回答時間	課題概要	評価基準	評価スケール
音読	各問 45 秒	各問 45 秒	アナウンスや広告などを音読	発音、イントネーション、アクセント	0–3
写真描写	各問 45 秒	各問 30 秒	写真を見て内容を説明	上記に加え、文法、語彙、一貫性	0–3
応答問題	なし（回答開始までに 3 秒）	15 秒または 30 秒	電話でのインタビューや問い合わせに答える	上記に加え、内容の妥当性と内容の完成度	0–3
提示情報への応答	なし（回答開始までに 3 秒）	15 秒または 30 秒	提示された資料に基づいて、3 つの質問に回答	上記全て	0–3
意見を述べる	45 秒	60 秒	テーマに対する自分の意見と理由を述べる	上記全て	0–5

このように、様々なタスクが採用されているのは、スピーキング能力の構成概念が多面的であることが理由です。言語テストでは原則として、1 つのタスクにつき、1 つの側面を測定しています。「良いテスト」は妥当性 (意図した構成概念を適切に測定している)・信頼性 (採点結果が十分に安定している)・実現可能性 (テストの作成・実施・評価・解釈が無理なく行える) の 3 つのバランスが取れており、さらに測定する構成概念の一次元性が満たされていることが必要です。例えば、校内でのスピーキングテストで、スピーキング能力の中でも「準備して話す力」を測定することを目的にスピーチ課題を実施するとします。この際、評価者 1 人で 300 人の生徒のスピーチを採点することは実現可能性に困難を抱えると考えられます。さらに、先生が慣れていない最初に採点した生徒と、徐々に慣れてきた後半に採点した生徒との間では評価の基準 (内的一貫性) が変わってしまう可能性もあります。

このような点を踏まえ、S&W の設問について、学習指導要領の内容と対比しながらまとめていきます。

3.1.1 音読問題

音読問題では、アナウンスや広告などを音読するというタスクで、発音やイントネーションなどが測定されます。アナウンスや広告といった内容は、例えば駅員さんが到着駅までの時間が書かれた原稿を読み上げるなど、言語使用の場面が具体的です。そのため、オーセンティックな問題形式であると言えます。

音読問題は S&W および Bridge S&W の両テストで採用されています。音読は学習指導要領では、「話すこと」ではなく、「読むこと」に記載があります。具体的には、平成 29 年告示 中学校学習指導要領 (第 9 節 外国語 第 2 各言語の目標及び内容等 2 内容) においては『書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり，その内容を表現するよう音読したりする活動。』と記載されています。

教育現場ではアナウンスやニュースなどを対象としてペア活動を行ったり、物語における登場人物のように感情を表現するよう音読したりすることがあります。これらは英文が書かれた目的や意義 (例. 誰かに情報を伝える) を意識する活動であり、単に教科書に書かれたテキストを音声化する活動にとどまりません。S&W、Bridge S&W ではアナウンスや広告など、英文が書かれた目的が明確です。なお以降の分析において、音読は設問文章であるため、学習者が使う発表語彙とは異なる性質であることから、分析には含めていません。

3.1.2 写真描写問題

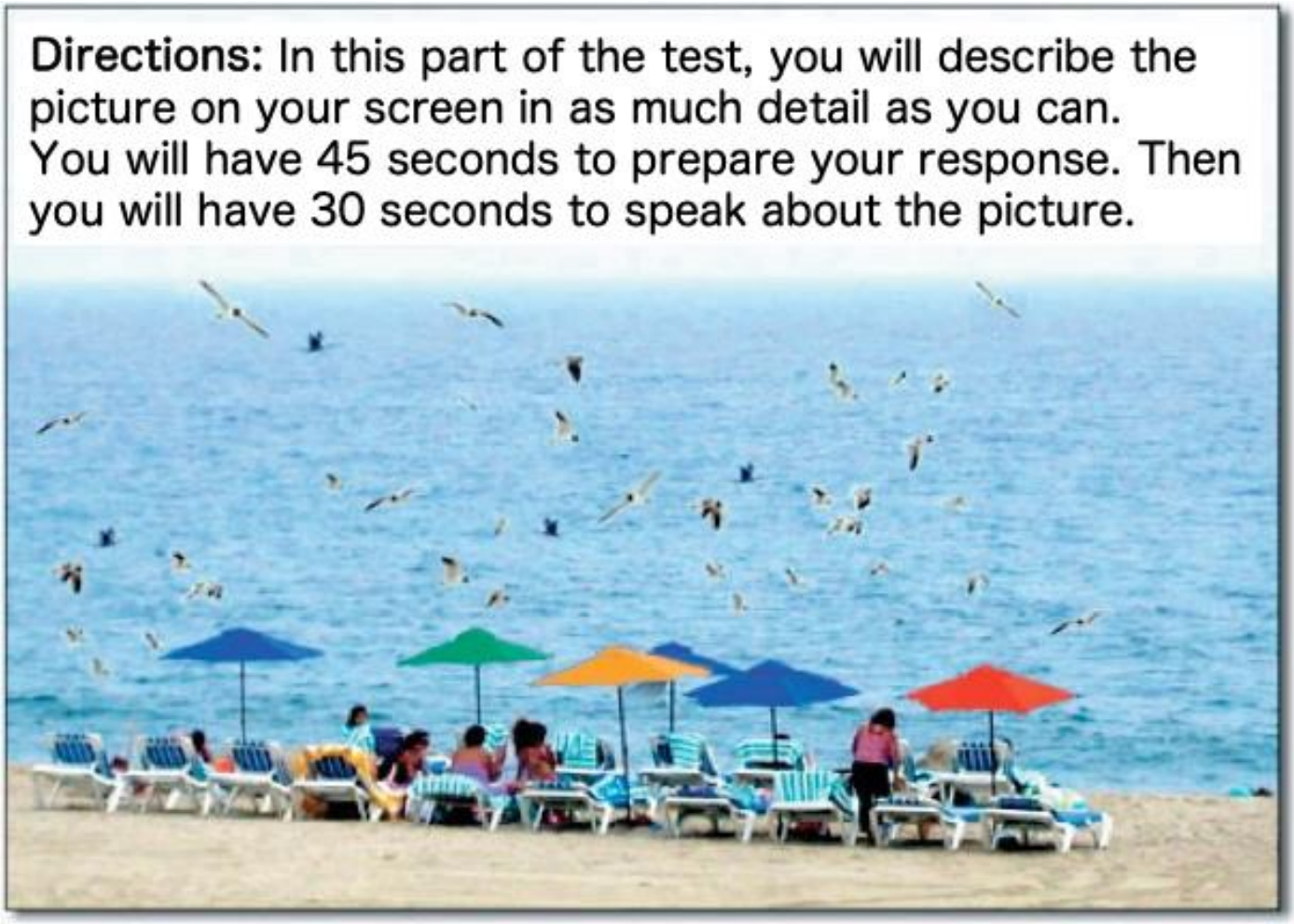
写真描写問題も S&W および Bridge S&W で共通する問題形式です。タスクの名前が表す通り、提示された写真の内容を口頭で説明するタスクです。写真によって使用する語彙に制限が設けられている点が特徴的です。そのため、評価基準に語彙や文法などの情報が含まれています。

写真描写問題は学習指導要領では、「言語の取り扱い」に記載があります。具体的には以下の通りです。平成 29 年告示 中学校学習指導要領 (第 9 節 外国語 第 2 各言語の目標及び内容等 2 内容［知識及び技能］)『(ウ) 事実・情報を伝える・説明する・報告する・発表する・描写するなど』。中学校学習指導要領では事実・情報を描写することが言語の働きとして明示されていますが、小学校学習指導要領では扱われていません。これは中学校で事実や情報を正しく伝えるために、客観性や論理性を意識することが求められるためであると考えられます。

図 7 は写真描写問題の具体例です。準備時間は 45 秒、回答時間は 30 秒です。写真描写問題では、受験者はできる限り詳細に、写真の内容を描写することが求められます。回答の際には、どこで、いつ、誰が、何をしたのかの観点で記述することが必要です。例えば、夏に、ビーチで、カモメが、空を飛んでいるなどが記述できるかもしれません。

図 7

S&W における写真描写問題の具体例 (スピーキング)



写真描写課題における指導においては、以下のようなフレーズが役に立ちます。

- This is a picture taken in XX.
- This picture describes XX.
- This picture shows XX.
- I can see XX in the middle.
- On the left side, there is XX.
- In the background, I can see XX.

これらはいずれも中学生が知っている単語です。S&W の受験者には大人が多数ですが、実はポイントを押さえれば簡単なフレーズやチャンクで表現できます。これらのフレーズやチャンクは教育現場で積極的に指導されています。例えば、dictionary だけを覚えるのではなく、consult a dictionary、look up A in a dictionary のようにコロケーションで覚えることが推奨されます。

フレーズやコロケーションだけでなく、パラフレーズも有効の指導方法の 1 つです。図 7 の例では、カモメやビーチ用のイスの言い方がわからないという場合が想定されます。このような場合の対策としては上位語でのパラフレーズが挙げられます。Seagull が分からずとも、上位語の bird を使うことができます。写真描写で使えるフレーズである I can see を使って、I can see flying birds. と表現すれば適切に状況を説明することができています。このように、難しい単語を無理に使う必要はありません。スピーキングやライティングに苦手意識がある学習者は、リーディングやリスニングで使うような低頻度の難しい語彙を使いこなそうとする傾向があります。しかし、実際には高頻度の基本語を用いたパラフレーズで多くの場合は対応できます。また、パラフレーズの際には flying birds や people sitting on chairs のように、分詞や関係代名詞を活用することが有用です。

なお、写真描写問題は研究においても頻繁に用いられています。Saito et al. (2022) は即時に発話するスピーキング能力を測定することを目的として、準備時間が 5 秒、回答時間が 30 秒の写真描写タスクを採用しています。今後の研究では、準備時間の長さとパフォーマンスの関係性についても検証されるかもしれません。

3.1.3 応答問題

S&W における応答問題では、即時のスピーキング能力を測定している応答問題が採用されています。以降のタスクは内容の妥当性とその完成度も加味した評価基準となることから、背景知識を活用して、言語を使いこなすことが求められています。

「話すこと (やりとり)」については、CEFR-J[3]では A1 から B2 まで幅広く扱われています。CEFR-J の Can-Do リストの段階は内容に応じてレベル分けされています (表 4)。例えば、賛成や反対などを述べることは A2.2、病院や市役所などで詳細情報を提供してサービスを受けることができるレベルは B1.2 になります。S&W の内容は電話でのインタビューや問い合わせということであり、B1 レベルのタスクであると思われます。言語が使用される目的・場面・状況に応じて Can-Do のレベル分けが行われている点がポイントです。

[3] http://www.cefr-j.org および http://www.cefr-j.org/download.html#cefrj を参照のこと

表 4

CEFR-J における「話すこと (やりとり)」の Can-Do リストの一例

CEFR-J レベル	Can-Do リスト
A1.2	基本的な言い回しで日常のやり取りができる (例：What XX do you like?)
A1.3	趣味や部活動などの馴染みのあるトピックの質疑応答や人を誘ったり、誘いを断ったりすることができる (例：Who is your favorite singer?)
A2.1	順序や繋ぎ言葉、補助となる絵があれば情報をやり取りできる
A2.2	賛成・反対などを簡単な英語で述べることができる、物や人を比較できる予測できる状況 (郵便局、駅、店など) であれば様々な表現ができる
B1.1	身近なトピック (学校、将来の夢、趣味) や個人的に関心のある具体的な内容であれば多様な表現で社交的な会話を続けることができる
B1.2	病院や市役所、駅や店で関連する詳細情報を提供し、適切なサービスを受けることができる
B2.1	ある程度馴染みのあるトピックであれば、新聞やニュースの要点を議論できる
B2.2	一般的な分野から学術的な分野まで幅広いトピックの会話に積極的に参加して、自分の考えを正確かつ流暢に表現できる

3.1.4 提示情報への応答

3.1.3 の応答とは異なり、この問題形式では、提示された資料に基づいた 3 つの質問に回答します。45 秒のスキミングと情報のやり取りがあるため、「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと」の技能統合型タスクであると言えます。技能統合型タスクは、学習指導要領でも言語活動の対象となっています。中学校学習指導要領 (話すこと [やり取り]) では、『「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動』のように、聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づいて、相手からの質問に対して応答することが言及されています。高校ではさらに、「身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表した入り、文章を書いたりする活動。」のように、即興性が求められています。S&W では、45 秒のスキミングと情報のやり取りに関するタスクが用いられていおり、学習指導要領で求められている構成概念と共通していると言えます。大学生の場合、大学院進学後に必要となるアカデミックスキルと言えます。

3.1.5 意見を述べる問題

S&W のスピーキングにおける最後のタスクは意見を述べる問題です。こちらはテーマに対して、自分の意見とその理由を述べるもので、45 秒で準備し、60 秒でまとめる必要があります。具体例は以下の通りです：

Some people prefer to take a job that does not pay well but does provide a lot of time off from work. What is your opinion about taking a job with a low salary that has a lot of vacation time? Give reasons for your opinion.

内容の妥当性と完成度が評価基準になっていることから、説得的な内容にする必要があります。しかし、テーマによっては日本語でも難しいかもしれません。そこで練習として活用できるのが生成 AI です。なお、利用についてはそれぞれの機関のルールに沿ってお使いください。Argument 形式の問題では、自分の主張が論理的にするために、自分の主張のデメリットも示し、それを天秤にかけても、自分の意見が通るような証拠を示すことで説得的になります。生成 AI でブレインストーミングをする際、メリットとデメリットを表形式で出力するなどの工夫も考えられます。他にも一貫性や結束性を持たせるためにテーマとリームを活用する方法があります。

3.1.6 S&W および Bridge S&W の問題形式

Bridge S&W の問題形式は S&W と類似しており、合計 8 問で全体の所要時間は約 15 分です (表 5)。

表 5

Bridge S&W におけるスピーキングタスクの問題形式

内容	準備時間	回答時間	課題概要	評価基準	評価スケール
音読	各問 25 秒	各問 30 秒	短い文章を音読する	全体的なわかりやすさ、発音、イントネーション、アクセント	0–3
写真描写	各問 30 秒	各問 30 秒	写真を見て内容を説明する	写真の重要な部分の描写、聞き取りやすさ、語彙・構文の適切性	0–3
聞いたことを伝える	15 秒	30 秒	ある場面のメッセージやお知らせなどを聞いて、その趣旨や要点を第三者に伝える	趣旨の理解、聞き取りやすさ、語彙・構文の適切性	0–3
短い応答	30 秒	30 秒	メモなどの資料に基づいて、情報の要求、依頼、申し出、提案、招待などをする	「聞いたことを伝える」の基準に加え、大局的誤りの有無	0–3
ストーリー作成	45 秒	60 秒	一連の絵に基づき、ストーリーを順序立てて述べる	ストーリーの一貫性、聞き取りやすさ、語彙・構文の適切性	0–4
アドバイス	60 秒	60 秒	比較対象可能な選択肢を薦める理由を述べる	情報を適切に伝えているか、推薦しているか、聞き取りやすさ、語彙・構文の適切性	0–4

S&W および Bridge S&W では多様なタスクが採用されていました。この点は、学習指導要領や CEFR-J で多面的なスピーキング能力を仮定している点とも共通しています。なお、テストで求められている技能は CEFR-J で A1 から B1 ほどであり、難しくて歯が立たないわけではありません。具体的な構文レベルについては 3.2 節にて述べます。

S&W および Bridge S&W では、オーセンティックなタスクが採用されており、「コミュニケーションの目的や場面、状況」を重視している学習指導要領の流れとも一致しています。具体的には、電話や提示された資料に基

づくタスクが該当します。さらに、聞いたことを伝える「リテリング」は教育現場でも技能統合型の学習であり注目されています。これらの内容は、大学生をはじめとした大人の英語学習者にも必要となる能力と言えます。また、技能統合型やストーリーの一貫性の構築、批判的思考能力など、教育現場での指導で育成を目指している能力とも共通している点が特徴として挙げられます。

3.2 複雑性指標に基づく分析

本節では、S&W および Bridge S&W におけるスピーキングタスクについて、複雑性・正確性・流暢性 (Complexity, Accuracy, and Fluency; CAF) の中でも、特に複雑性指標に焦点を当てた結果を示します。複雑性指標に着目することにより、最も高いスケールに該当するモデル回答の客観的な特徴を構文のレベルで捉え、複雑で洗練された英文を用いずとも最も高い評価が得られる可能性があることを示すことができます。

分析には TextInspector (https://textinspector.com/) を使用しました。模範回答の分析である点と、ライティングタスクと直感的に比較しやすくする点から、分割単位としては T ユニットよりもむしろ、1 文中の動詞および名詞要素の数を採用しました。採用した具体的な複雑性指標は以下の通りです。

- 語彙の多様性：値が高い多様な語彙を用いている
- 1 文中の動詞要素：文中に含まれる動詞の数が多いほど、複雑な構文を用いている
- 1 文中の名詞要素：文中に含まれる名詞の数が多いほど、前置詞句や修飾句などの複雑な構文を用いている
- CEFR レベルごとの割合：文章に占める語彙の CEFR レベルの割合 (B レベルの割合が多いほど難しい語彙を使っている)

なお、使用される語数が 50 語未満である場合には推定結果が安定しないことから、Bridge S&W における「短い応答」の語彙の多様性指標に関しては算出していません。

語彙の多様性指標である the measure of textual lexical diversity (MTLD) の結果は表 6 の通りです。表 6 はいずれも平均値を示しています。サンプルサイズが非常に限られているため、統計的な検定を行うことはできません。記述統計に基づくと、以下の点が示されました。

- Bridge S&W では「ストーリー作成」と「写真描写」の語彙の多様性が低く、「アドバイス」と「聞いたことを伝える」タスクの多様性が高い
- S&W ではいずれも 40 を超えており、「写真描写」「提示された情報に基づく応答」「応答」の 3 つのタスクは類似しており、「意見を述べる」が最も高かった

今回得られた傾向としては、S&W の方が多様な語彙を用いている点が挙げられます。ただし、左側の Bridge S&W は自由産出型のアドバイスやリテリングタスクでは、MTLD が高い傾向にありました。これはプロンプトとして示されているリスニングでの語彙やアドバイスの選択肢によるプライミング効果である可能性も考えられます。ただし、タスクがそれぞれのテストで異なっているため、純粋に比較することはできない点には注意が必要です。

表 6

S&W および Bridge S&W におけるスピーキングタスクの語彙多様性指標

Bridge S&W				S&W				
アドバイス	ストーリー作成	写真描写	聞いたことを伝える	短い応答	写真描写	意見を述べる	提示された情報に基づく応答	応答
42.9	25.7	27.2	54.9	NA	49.4	60.1	46.5	53.6

1 文あたりの動詞の要素に関する結果は表 7 の通りです。S&W の方が 1 文あたりに含まれる動詞の要素数が多いという傾向でした。これは、if や when などの従属節、分詞を使った付帯状況など、構文レベルで S&W の方が複雑である可能性を示しています。ただし、Bridge S&W では聞いたことを伝えるタスクにおいては、値が大きくなっていることから、技能統合型のタスクと独立型のタスクの間で差があると考えられます。

表 7

S&W および Bridge S&W におけるスピーキングタスクの 1 文あたりの動詞の要素数

Bridge S&W					S&W			
アドバイス	ストーリー作成	写真描写	聞いたことを伝える	短い応答	写真描写	意見を述べる	提示された情報に基づく応答	応答
1.37	2.45	0.956	3.44	1.68	1.65	2.52	3.50	2.27

1 文あたりの名詞の要素の数に関する結果は表 8 の通りです。こちらも S&W の方が高い値を示しています。また、Bridge S&W では技能統合型タスク「聞いたことを伝える」において名詞要素の数が多くなりました。これは音声で提示された英文を参考に自分の発話を組み立てているためであると考えられます。

表 8

S&W および Bridge S&W におけるスピーキングタスクの 1 文あたりの名詞の要素数

Bridge S&W					S&W			
アドバイス	ストーリー作成	写真描写	聞いたことを伝える	短い応答	写真描写	意見を述べる	提示された情報に基づく応答	応答
1.35	1.48	1.42	3.02	1.60	2.38	3.56	4.21	3.09

スピーキングにおける複雑性指標の結果をまとめます。全体的な傾向として、TOEIC S&W の方が Bridge S&W よりも高い傾向にありました。ただし、どちらも 2000〜3000 語レベルの語彙が用いられていることから、S&W は長い複雑な文を述べることが求められていることがわかります。初学者は Bridge S&W から受験し、高頻度語彙によるパラフレーズや、I can see のようなフレーズを学んだり、テスト受験方略を指導・学習したりすることによる正の波及効果が期待されます。

4. ライティングタスクの分析

ライティング能力もスピーキング能力と同様に、多面的であることから、S&W および Bridge S&W では複数のタスクが採用されています。いずれも、制限産出と自由産出の区別だけでなく、技能の独立と統合の観点でも分けることができます。例えば、写真描写問題は使用する語彙が制限的ですが、意見を記述する問題は自由度が高いと言えます。また、E メールやメッセージへの返信は英文を読んだ上でのライティングであるため、2 つの技能が統合されています。これらのタスクの特徴を総合すると、S&W の方が要求される技能レベルが高いと考えられます。

表 9

S&W および Bridge S&W で用いられているライティングタスク

S&W (全 8 問)		Bridge S&W (全 9 問)	
Q. 1–5	写真描写	Q. 1–3	文を組み立てる
Q. 6,7	E メール作成	Q. 4–6	写真描写
Q. 8	意見を記述	Q. 7	短文メッセージ返信
		Q. 8	ストーリー記述
		Q. 9	長文メッセージ返信

4.1 S&W および Bridge S&W ライティング

S&W および Bridge S&W におけるライティングタスクは基本的に、スピーキングタスクと同様に各タスクに対して回答時間や評価基準が設定されています (表 10・表 11)。

表 10

S&W におけるライティングタスクの問題形式

内容	回答時間	課題概要	評価基準	採点スケール
写真描写	5 問で 8 分	与えられた 2 つの語句を使い、写真の内容に合う一文を作成する	文法、写真と文章の関連性	0–3
E メール作成	各問 10 分	25〜50 語程度の E メールを読み、返信のメールを作成する	文章の質と多様性、語彙、構成	0–4
意見記述	30 分	提示されたテーマについて、自分の意見を理由あるいは例とともに記述する	理由や例を挙げて意見を述べているか、文法、語彙、構成	0–5

表 11

Bridge S&W におけるライティングタスクの問題形式

内容	問題数	回答時間	課題概要	評価基準	評価スケール
文を組み立てる	3 問	各問 60 秒	バラバラに並んだ語や句を並べ替えて、文法的に正しい文を作る。	語順が適切か	0–2
写真描写	3 問	各問 90 秒	提示された 2 つの語や句を両方用いて、写真の内容を説明する 1 つの文を説明する。	指示に対処しているか、文法的な誤りはあるか、回答と写真は一致しているか、2 つのキーワードは適切か	0–3
短文メッセージ返信	1 問	8 分	短いメッセージを読んで、示された 2 つの要件を満たす返信を作成する。	指示に対処しているか、2 つの要件を満たしているか、語彙・構文の適切性、意味の明瞭さ	0–3
ストーリー記述問題	1 問	10 分	指示された内容に基づいて、ストーリーを記述する。	トピックと課題に対処しているか、ストーリーの論理性、一貫性、語彙の適切性	0–3
長文メッセージ返信	1 問	10 分	長文メッセージを読み、指示に従って返信を作成する。	情報・意見・理由が述べられているか、論理性、一貫性、語彙の適切性、語調と言葉遣い	0–4

写真描写課題では、提示されている 2 つの語を使うように指示されていることから、制限的なライティング能力を測定しているタスクと言えます。ここでも、There are…や I can see…のような定型表現の使用や 5W1H での記述が効果的です。

図 8

S&W における写真描写問題の具体例 (ライティング)

airport terminal / so

E メール作成問題はリーディングとライティングの技能統合型となり、評価観点には構成が含まれています。つまり、メール文で使える表現についての知識が重要となると言えます。学習指導要領では様々な音声媒体や文字媒体による情報や考えなど (例 : ニュース、ポスター、電子メール) を対象としていることが示されています。図 9 のように、E メールの形式として、表題を書くことや宛先を最初の述べること、最後に自分の名前を記載することなど、将来、就職面接などで E メールを使う機会があることから、大学生だけでなく、中高生は今のうちから慣れておくことが必要かもしれません。S&W の問題は現実世界の英語使用を反映していると言えるでしょう。

図 9

E メール作成問題の具体例

FROM:	Dale City Welcome Committee
TO:	New Dale City Residents
SUBJECT:	Welcome to your new home!
SENT:	July 23, 4:32 P.M.

Welcome! We would like to be the first to welcome you to Dale City. We know that there are many things to do when you move, from finding your way around town to setting up your utilities. Please contact us if you need any help at all.

意見を記述する問題では、“There are many ways to find a job: newspaper advertisements, Internet job search Web sites, and personal recommendations. What do you think is the best way to find a job? Why? Give reasons or examples to support your opinion.” のようなプロンプトに対し、30 分の時間制限で一定量以上の語数を書きます。自分の意見を支持する理由や具体例をまとめ、説得的な文章を書くことは、アカデミックライティングでも求められる汎用的スキルと言えます。このような批判的思考能力は、高校の論理・表現の授業で育成が目指されています。また、21 世紀に必要とされる重要なスキルと言えるでしょう。賛成/反対 (自分の主張)、その理由、それを支持する論理的な根拠、具体例などをまとめ、多様な意見を認めた上で説得的な文章を書くことはアカデミックライティングでも求められています。大学での必須技能を中高生は Bridge S&W の受験を通し、正の波及効果が見込めると考えられます。実際に、高等学校学習指導要領では、ライティングを通した批判的思考能力は論理・表現の目標として掲げられています。

ライティングについても、Bridge については説明を省きます。Bridge では、「短文メッセージ問題」で、チャット形式の SNS のような非常に短いメッセージも使われています。「ストーリー記述問題」では、短いブログを書くような問題もあります。どちらも現代社会で求められるライティング能力を測定しているタスクといえます。

4.2 複雑性指標に基づく分析

ライティングタスクについて、スピーキングタスクの分析と同様に、TextInspector を用いた複雑性指標の結果は表 12–14 の通りです。なお「文を組み立てる問題」は、スピーキングにおける「音読問題」と同様に、語彙が提供される設問であるため分析に含めてはいません。

表 12

S&W および Bridge S&W におけるライティングタスクの語彙多様性指標

Bridge S&W				S&W		
ストーリー記述	写真描写	短文メッセージ	長文メッセージ	E メール作成	写真描写	意見記述
46.6	20.9	41.0	70.1	76.2	36.9	80.5

表 12 は MTLD に関する結果です。Bridge S&W でも、長文メッセージ返信とストーリー記述のタスクにおいては、S&W の写真描写問題よりも多様な語彙を用いてられていました。これはタスクの特徴に応じて求められる語彙の特徴が異なることに由来していると考えられます。写真描写は使う語彙が写真によって制限され、簡潔な内容である一方、比較的長いストーリーや内容の記述では多くの語数を使って記述する必要があります。つまり、語彙の使用が制限的か自由産出型かというタスクの要因と語彙の多様性は交互作用があると考えられます。

表 13

S&W および Bridge S&W におけるライティングタスクの動詞の要素数

Bridge S&W				S&W		
ストーリー記述	写真描写	短文メッセージ	長文メッセージ	E メール作成	写真描写	意見記述
1.51	2.32	1.97	1.73	2.45	2.61	3.01

表 13 は動詞の要素の数に関する結果です。いずれのタスクでも S&W の方が高い傾向が見られました。また、タスクが自由産出的か制限的かで、1 文あたりの動詞要素の数は変化することが示されました。具体的には、Bridge S&W の長文メッセージ返信タスクでは、動詞要素の数は少なくなる傾向にありました。つまり、モデル回答では単文が主に用いられている傾向があると言えます。

表 14

S&W および Bridge S&W におけるライティングタスクの名詞の要素数

Bridge S&W				S&W		
ストーリー記述	写真描写	短文メッセージ	長文メッセージ	E メール作成	写真描写	意見記述
1.53	2.00	1.80	2.06	2.59	2.97	3.14

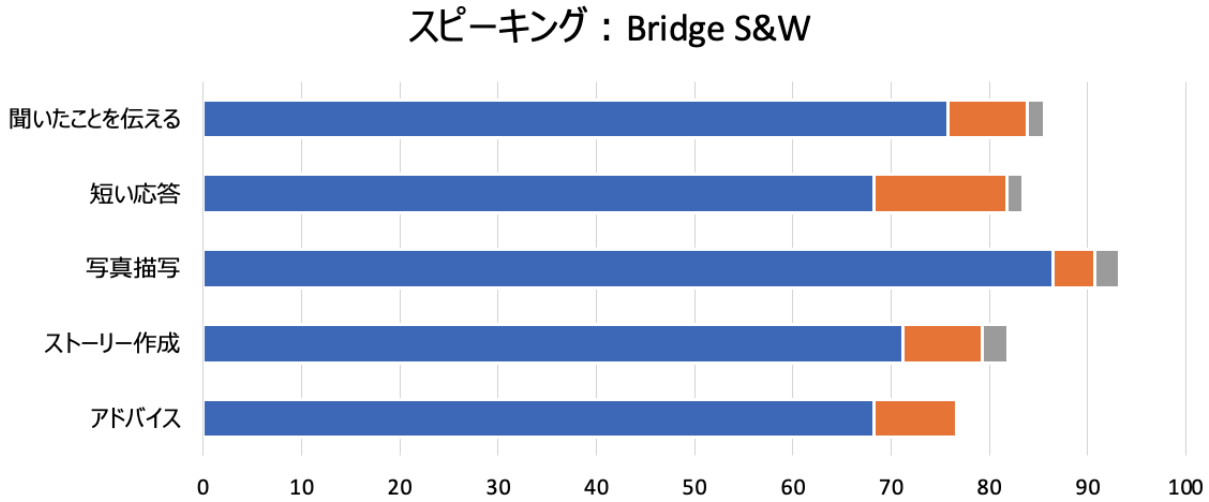
表 14 は名詞要素の結果です。動詞要素の数と合わせて考えると、自由産出型や技能統合型など、タスクの特徴によっては、用いられる語彙の特徴と交互作用が想定されます。

最後に、Bridge S&W における語彙プロフィールとして、CEFR レベルの割合の結果をまとめます。語彙の複雑性ということでカバー率と類似しています。CEFR に基づく結果と New Word Level Checker の結果を総合的に交差検証が可能です。今回の結果は A1 レベルの語彙の割合がいずれのタスクでも多く、写真描写のタスクが最も高い割合でした。写真描写では上位語でパラフレーズが可能であることが、この結果の背景にあると考えられます。

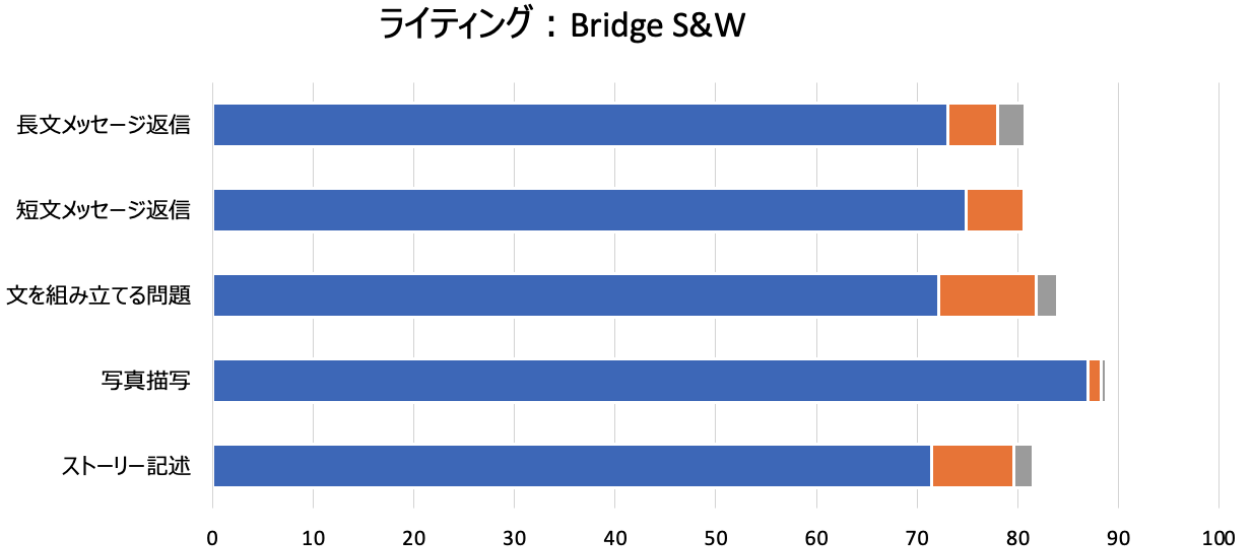
図 10 および図 11 は Bridge S&W における語彙の CEFR レベルの割合をそれぞれ表しています。CEFR の A1 レベル語彙の割合が高いことから、Bridge S&W および S&W の発表語彙は、特に難しい語彙を用いているわけではないことが示されました。

図 10

Bridge S&W における語彙プロフィール



	アドバイス	ストーリー作成	写真描写	短い応答	聞いたことを伝える
A1レベル	68.2	71.2	86.5	68.2	75.8
B1レベル	8.4	8.09	4.2	13.6	8.09
B2レベル	0	2.59	2.58	1.56	1.75



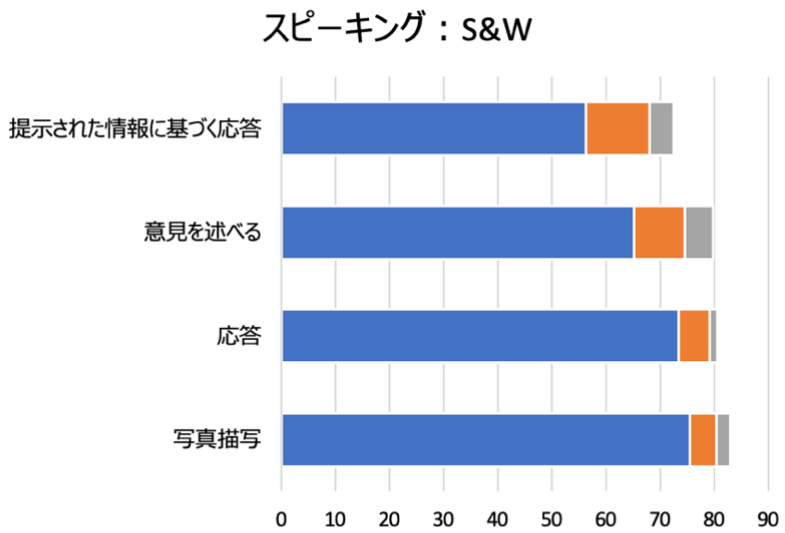
	ストーリー記述	写真描写	文を組み立てる問題	短文メッセージ返信	長文メッセージ返信
A1レベル	71.4	87	72.1	74.9	73.1
B1レベル	8.18	1.3	9.73	5.73	4.94
B2レベル	1.97	0.52	2.08	0	2.69

なお得られた結果については、最も高い採点スケールに該当する回答に焦点を当てている点、および分析対象数が限られている点に注意が必要です。これは逆に、最も高い採点スケールと評価されても難しい語彙を使っているわけではないことが特徴として示唆されたと言えます。

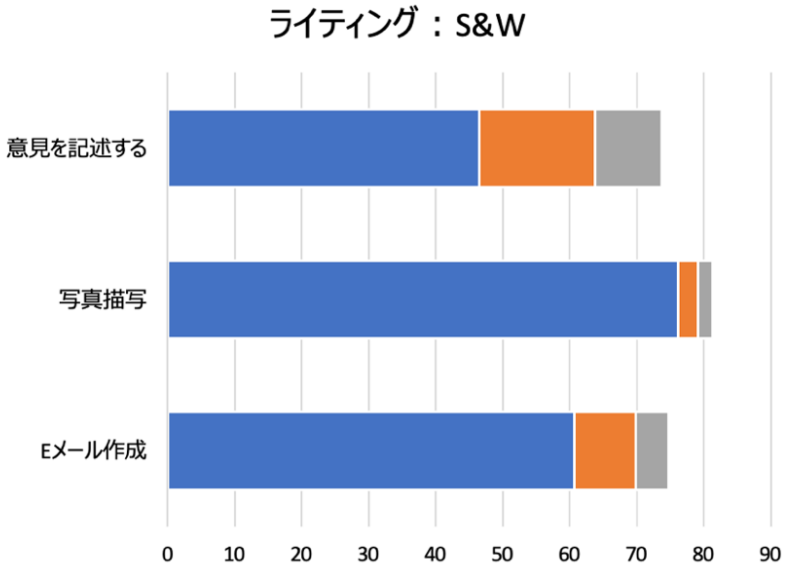
図 11 は S&W の結果を示しています。こちらも Bridge S&W と同様、A1 レベルの語彙の割合が高いという結果でした。ただし、ライティングにおける意見を記述する問題に関しては、A1 レベルの語彙の割合が 5 割を下回っていたことから、難易度の高い語彙を使っていることも示されました。

図 11

S&W における語彙プロフィール



	写真描写	応答	意見を述べる	提示された情報に基づく応答
A1レベル	75.4	73.4	65.2	56.3
B1レベル	4.97	5.72	9.33	11.7
B2レベル	2.52	1.4	5.14	4.5



	Eメール作成	写真描写	意見を記述する
A1レベル	60.7	76.2	46.5
B1レベル	9.2	2.97	17.3
B2レベル	4.83	2.14	9.94

得られた結果をまとめます。語彙の複雑性指標は Bridge S&W のタスク間で差が見られませんでした。つまり、Bridge S&W では一定の範囲の語彙を使うことで、複数のタスクに対応できること可能性があります。また、S&W に関しては、難易度の高い語彙が用いられているタスクもありました。これは、技能統合型タスクにおいて、提示されていた情報に難易度の高い語彙が含まれていた可能性が考えられます。また、自由産出型のタスクでは準備時間が他のタスクよりも長く、難しい語彙を使うことが想定されていたと考えられます。また、1 文あたりの動詞の要素数、語彙の洗練性指標を含めて考えると、S&W で用いられている語彙は CEFR で A1 レベルのものが多い一方で、1 文あたりの語数が多く、前置詞句や従属節、関係節などを用いて、情報を付け加えている傾向があると考えられます。

S&W と Bridge S&W の関係性について、構文の複雑性指標の観点からは、S&W の方が難しい傾向あることが示されました。この結果から、S&W と Bridge S&W は語彙レベルがほとんど等しい一方で、S&W は 1 文あたりの語数が多く、多様な語彙を使っている傾向がありました。つまり、発表語彙として、高頻度語彙を組み合わせ、多様な表現ができるようにすることが重要であり、難しい語彙を使うことは求められていないことがわかります。なお、S&W の方が Bridge S&W よりも語数が多い結果でした。語数の影響を統計的に統制している結果ですが、あくまで使用されている構文についての結果となります。そのため、一貫性や流暢性、タスクの特徴などを検討することはできていない点には十分に注意が必要です。

5. まとめ

S&W および Bridge S&W では複数のパフォーマンスタスクが採用されていることから、受験者のパフォーマンス能力のさまざまな側面を測定しています。また、それぞれのタスクは学習指導要領の目標に共通しており、中高生の英語学習成果を測る際にも活用できます。また、スピーキング技能に限定したテストについては、留学を考えている大学生や国際会議に参加する社会人など、活用範囲が広い、客観的な熟達度テストとして活用できるのではないでしょうか。さらに、受験の結果として得られるスコアレポートを活用することで、今後の英語学習の動機づけにも繋げることができるかもしれません。

本研究で得られた結果を解釈するにあたり、分析の観点として用いられた指標は実際の評価の一部であることに注意が必要です。具体的には、実際の回答は流暢性や発音、一貫性などの複合的な観点から評価されており、今回の語彙や複雑性指標といった調査内容だけで回答の評価が決まるわけではないことに注意してください。また、今回の分析はあくまで 3 冊の書籍のみを対象とし、その中で最も高い採点スケールに相当すると評価された回答例のみを対象としています。そのため得られた数値の一般化には細心の注意が必要です。しかし、分析対象は多くないものの、テストを制作し評価者を育成する ETS が「最も高い採点スケールに相当する」と認める回答例のみを対象としているため、高い採点スケールに該当する回答の特徴や傾向をある程度とらえることができたのではないでしょうか。今回の分析は最も高い採点スケールに該当する回答例に含まれる語彙であったことから、発表語彙が 3,000 語未満の学習者でも十分に挑戦できると言えます。具体的には、難しい単語は別の上位語でパラフレーズすることなどで対応できます。これは、S&W で用いられている語彙が 3,000 語程度であっても、前置詞句や関係節でパラフレーズされ、複雑な構文が用いられていることからも伺えます。また語彙の難易度を上げるのではなく高頻度語で言い換える、高頻度語を使ったフレーズなどを発表語彙として使えるよう学習・練習するなどの学習効果も狙えるのではないでしょうか。

本研究の結果、最も高い採点スケールに相当する回答例でも、使用される語彙レベルは 3,000 語前後でした (図 3・4 を参照)。3,000 語レベルの語彙を発表語彙知識として使いこなすことを目標に据えることで、S&W、Bridge S&W のタスクに十分に対応し、また高い採点スケールの評価も十分期待できる可能性があるといえるでしょう。さらに、高校卒業までに指導する語彙が約 5,000 語であることを踏まえると、S&W および Bridge S&W の回答で求められている語彙レベルはそこまで難しいものではないように思えます。具体的には、S&W も Bridge S&W も

中学校 1 年生で習う語彙だけで約 8 割をカバーすることができます (図 5・6 を参照)。やはり高頻度語を発表語彙知識として活用することの重要性が窺われます。

用いられているタスクの特徴として、技能統合型、リテリング、批判的思考能力など、学習指導要領の目標や、教育現場で重視されている概念および CEFR の Can-Do リストとも十分に合致していました。Bridge S&W および S&W で用いられているタスクの特徴ごとに意図されるパフォーマンス能力は異なりますが、それぞれのテストは客観的なパフォーマンス能力を測定する機会を提供していると言えます。

本研究では主に言語形式に焦点を当てた分析を報告しました。繰り返しになりますが、実際の評価で含まれる流暢性や発音、一貫性などの複合的な観点は今回の分析には含まれていないことに十分ご注意ください。しかし、TOEIC S&W と Bridge S&W の語彙の多様性、構文の複雑性、CEFR における語彙レベルに基づく分析の結果、最も高い採点スケールに該当する回答であっても、過度に難しい語彙や複雑な構文は用いられていなかったこと示されました。このことからも、言語パフォーマンスとして、簡単な語彙や単純な構文を自由に使いこなす力が重視されていることがわかります。言語パフォーマンスで重要な点は、語彙や文法をいかに使いこなしているかであるといえるでしょう。S&W・Bridge S&W を受験するハードルは、本調査から、実はそこまで高くないことが示されました。

ETS, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. The Eight-Point logo is a trademark of ETS. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.

日本語版発行日：2025 年 4 月
日本語発行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
（The Institute for International Business Communication; IIBC）
〒164-0001　東京都中野区中野 4-10-2　中野セントラルパークサウス 5F

公式サイト https://www.iibc-global.org